

## 第 2 期 事前対応期（北海道周辺における地震・津波の歴史）

### 2-1. 日本海中部地震（1983 年）

#### 1. 地震の発生状況

1983 年 5 月 26 日、北緯 40 度 21 分、東経 139 度 04 分を震源とし、マグニチュード 7.7(最大震度 5)を記録した日本海中部地震のおりには、奥尻島青苗地区の 2 名をはじめ、全国で計 104 名の死者、648 名の負傷者を出した。北海道南西沖地震と同様、日本海中部地震も津波の被害が大きく、死者 104 名中、なんと 100 名が津波による死亡者だった(驚くべきことに韓国で 3 名の死者を出したほか、朝鮮半島全域や旧ソ連にまで被害が波及した)。ちなみに、このときの津波の最大記録は秋田県能代市の約 14m。日本海側では北海道から島根県までの広範囲に被害がおよび、水産関係で計約 132 億円、港湾関係で約 81 億円の損失が出た。[『北海道南西沖地震奥尻町記録書』奥尻町(1996/3),p.218]